

問題・解答
用紙番号

28

の解答用紙に解答しなさい。

世 界 史

〈受験学部・学科〉

3科目型 受験者 **3科目型と2科目型の併願受験者**

法学部, 国際学部, 経済学部, 経営学部, 現代社会学部,
農学部【文系型】(食品栄養学科・食農ビジネス学科)

問題は100点満点で作成しています。

I 次の文を読み、あとの設問に答えよ。(30点)

18世紀の繁栄のなか、清では人口が爆発的に増加し、移住の大きな流れが生じた。四川と湖北の山間部では、不安定な立場におかれた移住民を中心に (1) の乱が発生した。長引く反乱は清の財政を圧迫したが、郷紳などの地元の有力者は団練という自衛組織をつくり、清と協力して鎮圧した。

18世紀後半にはイギリスで紅茶を飲む習慣が定着し、中国茶の需要が高まっていた。イギリスから中国に大量の銀が流入し、イギリスは貿易赤字を補填するためにインドから清にアヘンをもちこんだ。清はアヘンをきびしく取り締まるため、1839年に林則徐を派遣し、外国人商人からアヘンを没収して廃棄した。これに対し、イギリスは清に武力でせまって勝利し(アヘン戦争)、1842年に^(a)南京条約を結ばせた。しかし、清との貿易はイギリスが期待したほどには増大しなかった。そこでイギリスは1856年、アロー号事件を口実にフランスとともに清と開戦し(第2次アヘン戦争)、A にせまって、1858年に A 条約を締結した。しかし、その批准をめぐる紛争から、英仏軍はさらに B に攻め入り、^(b)円明園を略奪し、1860年に清と B 条約を締結した。これらの条約により、清は華北や長江流域など11港の開港、キリスト教布教の自由などを認め、さらにアヘン貿易も公認された。

広東省の客家出身の (2) は、キリスト教の影響をうけ、宗教結社の上帝会を結成した。上帝会は1851年に反乱をおこして^(c)太平天国をたて、1853年には南京を占領して首都とした。この時期にはほかの地域でも反乱があいついだ。これらの反乱の対処に活躍したのは、曾(曾)国藩

の湘軍や (3) の淮軍に代表される (4) だった。第2次アヘン戦争後には、イギリス・フランスも清朝支持に転じ、^(d)常勝軍の編制などによって反乱の鎮圧に協力した。

(5) の時代には、その実母である西太后が実権をにぎるなか、反乱鎮圧と対外関係の改善にともない、清朝支配は安定へと向かった。曾国藩や (3) ら漢人有力官僚は、富国強兵をめざして、欧米の軍事や技術の導入をはかった。しかし、既存の政治体制や経済構造の安定が重視されたため、政治・社会体制の変革はすすまなかった。

問1. 空欄 (1) ~ (5) に入るもっとも適切な語句を以下の語群から選べ。

- [語群] ㉗ 袁世凱 ㉘ 郷勇 ㉙ 乾隆帝 ㉚ 洪秀全 ㉛ 康有為
㉜ 崔濟愚 ㉝ 左宗棠 ㉞ 三藩 ㉟ 宣統帝 ㊱ 張作霖
㊲ 鄭成功 ㊳ 東学 ㊴ 同治帝 ㊵ 捻軍 ㊶ 八旗
㊷ 白蓮教徒 ㊸ 雍正帝 ㊹ 李鴻章 ㊺ 李自成 ㊻ 緑營

問2. 空欄 A , B に入る地名の組み合わせとして、正しいものを一つ選べ。

- ㉗ A : 広州 B : 上海 ㉘ A : 広州 B : 北京
㉙ A : 天津 B : 北京 ㉚ A : 天津 B : 上海

問3. 下線部(a)~(d)について、以下の問いに答えよ。

(a) 南京条約に関する説明Ⅰ・Ⅱの正誤の組み合わせとして、正しいものを㉗~㉚から一つ選べ。

Ⅰ 長江以南の5港の開港を定めた。

Ⅱ 威海衛と九竜半島(新界)の租借を認めた。

- ㉗ I : 正 II : 正 ㉘ I : 正 II : 誤
㉙ I : 誤 II : 正 ㉚ I : 誤 II : 誤

(b) 円明園に関する説明として、正しいものを一つ選べ。

- ㉗ バロック・中国様式を融合した離宮で、アダム=シャル(湯若望)が設計にたずさわった。
㉘ バロック・中国様式を融合した離宮で、カステリオーネ(郎世寧)が設計にたずさわった。
㉙ ロココ・中国様式を融合した離宮で、フェルビースト(南懷仁)が設計にたずさわった。
㉚ ロココ・中国様式を融合した離宮で、ブーヴェ(白進)が設計にたずさわった。

(c) 太平天国に関する説明のうち、誤っているものを一つ選べ。

- ㊦ 儒教を排斥した。
- ㊧ 纏足を禁止した。
- ㊨ 辮髪を奨励した。
- ㊩ 天朝田畝制度をかかげた。

(d) 常勝軍の指揮にあたったイギリス軍人は誰か。正しいものを一つ選べ。

- ㊦ ウォード
- ㊧ ゴードン
- ㊨ マカートニー
- ㊩ ムラヴィヨフ

Ⅱ 次の文を読み、あとの設問に答えよ。(30点)

1095年に教皇 (1) は、クレルモン宗教会議を招集して聖地回復の聖戦をおこすことを提唱し、翌年第1回十字軍が出発した。こうしてヨーロッパから聖地のある東方にむけて多くの諸侯や騎士が移動することで交通が発達し、遠隔地貿易で繁栄する都市もあらわれた。遠隔地貿易は、まず地中海商業圏で発達し、^(a)ヴェネツィアなどのイタリアの港市ではムスリム商人を通じた東方貿易によって、エジプト産の小麦や東南アジア産の香辛料などがもたらされた。また、内陸都市フィレンツェは毛織物業や金融業で栄え、 (2) 家が台頭した。ルネサンスの時代に (2) 家はボッティチェリなどの芸術家を保護し、教皇レオ10世を輩出するなど大きな影響力をもった。つづいて重要なのは、北ヨーロッパ商業圏である。北ドイツの諸都市は海産物や木材などを取引し、ガン(ヘント)やブリュージュなどの^(b)フランドル地方の都市は毛織物業で繁栄した。とくに^(c)リューベックを盟主とする (3) 同盟に有力都市が参加した。この同盟は共同で武力をもちいるなどして大きな政治勢力になった。

15世紀になるとヨーロッパはあらたな航路でアフリカやアジアとつながり、さらに^(d)アメリカ大陸にも進出して交易圏を拡張し始める。まず、ポルトガル王のもとでアフリカ沿岸の探検がおこなわれ、アジア航路の開拓を目的に探検隊が南大西洋へ派遣された。つづいて、スペインは (4) の地球球体説をもとにしたコロンブスの計画を後援し、コロンブスの船団が1492年にカリブ海の島に到着した。その後、^(e)スペイン王カルロス1世の治世に (5) がメキシコでアステカ王国を滅ぼした。

問1. 空欄 (1) ~ (5) に入るもっとも適切な語句を以下の語群から選べ。

- 〔語群〕 ㊦ インノケンティウス3世 ㊩ ヴァスコ=ダ=ガマ ㊫ ウルバヌス2世
㊥ カブラル ㊧ カボット ㊬ ガリレイ ㊭ カルマル
㊦ グレゴリウス1世 ㊨ コペルニクス ㊮ コルテス
㊰ トスカネリ ㊪ ハプスブルク ㊯ ハンザ ㊱ ピサロ
㊲ フッガー ㊫ ボニファティウス8世 ㊴ メディチ
㊳ ユトレヒト ㊬ ヨーク ㊭ ロンバルディア

問2. 下線部(a)~(e)について、以下の問いに答えよ。

(a) ヴェネツィアに関する説明Ⅰ・Ⅱの正誤の組み合わせとして、正しいものを㉗~㉕から一つ選べ。

Ⅰ 12世紀前半にノルマン人の一派が侵入し、ヴェネツィアに王国を建国した。

Ⅱ 1866年にイタリア王国はオーストリア領であったヴェネツィアを併合した。

㉗ I : 正 II : 正 ㉙ I : 正 II : 誤

㉘ I : 誤 II : 正 ㉚ I : 誤 II : 誤

(b) 14世紀から15世紀頃のフランドル地方に関する説明として、正しいものを一つ選べ。

㉗ ジャンヌ=ダルクがこの地でイングランド軍を大敗させた。

㉙ イングランドがこの地に羊毛を輸出していた。

㉘ キリスト教徒とイスラーム教徒の戦いがこの地で続いていた。

㉚ フスがこの地で聖書を中心とする信仰の原点回帰を説いた。

(c) リューベックはどこか。地図中の記号㉗~㉕から正しいものを一つ選べ。



(d) アメリカ大陸に関する説明として、正しいものを一つ選べ。

- ㉖ 1783年のベルリン条約で、アメリカ合衆国の独立が承認された。
- ㉗ 1804年、世界ではじめての黒人国家として、キューバが独立した。
- ㉘ 1822年、スペインの王太子がブラジルで独立を宣言し、ブラジル帝国が成立した。
- ㉙ 1848年、アメリカ合衆国はメキシコとの戦争に勝利し、カリフォルニアを獲得した。

(e) スペイン王カルロス1世に関する説明Ⅰ・Ⅱの正誤の組み合わせとして、正しいものを㉖～㉙から一つ選べ。

Ⅰ 神聖ローマ皇帝でもあり、ルターの主張に賛同し、『新約聖書』のドイツ語訳を奨励した。

Ⅱ ヨーロッパ各地に広大な所領を有したが、弟と息子に領土をわけ与え、息子はスペインとハンガリーを継承した。

- ㉖ I : 正 II : 正 ㉗ I : 正 II : 誤
- ㉘ I : 誤 II : 正 ㉙ I : 誤 II : 誤

Ⅲ 世界の宗教に関する次の文章(1)～(20)には、下線部が正しいものと正しくないものがある。正しいものについては㉗を、正しくないものについては㉘～㉛からもっとも適切なものを選べ。

(40点)

(1) メソポタミア南部では前3500年頃から人口が急激に増え、神殿を中心に数多くの大村落が成立し、それらは都市へと成長していった。代表的な都市国家としてはウル・ウルク・ラガシュなどが挙げられるが、それらを築いたのはアムル人である。都市国家では王が政治や経済・軍事の実権をにぎり、都市の神をまつて人々を支配した。

㉘ アラム ㉙ カッシート ㉚ シュメール ㉛ ヒッタイト

(2) ユーフラテス川最南部に位置する古代メソポタミアの都市国家ウルの聖塔オストラコンは、^{れんが}煉瓦でつくられ、数層の基壇の上に神殿をたてる構造になっていた。王や神官は、正面と側面から階段をのぼったところにある祭壇で都市の神をまつた。

㉘ ジググラト ㉙ ストゥーパ ㉚ ピラミッド ㉛ ミナレット

(3) 前7～前5世紀頃にガンジス川流域では農業と商工業が栄え、城塞都市を中心とする多数の王国がうまれた。そのなかで、マガダ国が前5世紀にコーサラ国を滅ぼし、もっとも有力となった。こうした社会・経済の発展期に、あらたな思想や宗教がうまれた。まずあらわれたのがウパニシャッド哲学であり、ジャイナ教の祭式至上主義から転換して内面の思索を重視した。

㉘ ゴロアスター ㉙ バラモン ㉚ ヒンドゥー ㉛ マニ

(4) 仏教の創始者ヴァルダマーナは、出家して悟りを開き、ブッダ（仏陀、悟った者）となった。彼は、自己や私物への執着や煩惱を捨て、正しいおこないを実践することで人生の苦から解脱できると説いた。

㉘ アショーカ王 ㉙ ガウタマ=シッダールタ ㉚ 太宗 ㉛ 仏図澄

(5) 1世紀、西北インドにグプタ朝が成立した。同朝は大乗仏教を保護した。大乗仏教は、インダス川上流域のガンダーラ地方を中心に発達した仏教美術とともに各地に伝えられた。インド古来の美術にヘレニズムの技術が融合した作品が制作され、中央アジアから中国や日本にまで影響を与えた。

㉘ ヴァルダナ ㉙ クシャーナ ㉚ パガン ㉛ マウリヤ

(6) イエスは、権威主義と戒律主義におちいつていたバラモン教を批判し、神の愛と隣人愛を説いて、神の国の到来が近いことを唱えた。このため彼は同教の祭司やパリサイ派らによって反逆者としてうったえられ、十字架刑に処せられた。

- ① ヒンドゥー ㉷ マニ ㊦ ミトラ ㊧ ユダヤ

(7) アケメネス朝の伝統の復活をめざしたササン朝では、国教とされたマニ教の教典『アヴェスター』が編纂された。この教典はホスロー1世の時代に語り伝えられていた伝承を、公用語であった当時のペルシア語に翻訳し、さらに説明を加えることによって編纂されたものである。

- ① ジャイナ ㉷ ゴロアスター ㊦ バラモン ㊧ ヒンドゥー

(8) メッカの名家クライシュ族にうまれたムハンマドは、7世紀初めに神の啓示をうけ、みずからを預言者であると自覚した。ムハンマドは従来の多神教と偶像崇拜を否定し、モーセへの絶対的帰依を意味する「イスラーム」を説いたが、メッカの有力者たちから迫害された。

- ① アテン ㉷ アッラー ㊦ ヘレネス ㊧ ラー

(9) 632年にムハンマドが没すると、預言者の後継者としてのカリフが、イスラーム教徒の共同体（ウンマ）の指導者となった。初代カリフのウマルから第4代までのカリフは、世襲によらずウンマの合意を得てカリフ位に就任した。

- ① アブー=バクル ㉷ アリー
㊦ ハールーン=アッラシード ㊧ ムアーウィヤ

(10) アッバース朝第2代カリフのマンスールは、762年、ティグリス川中流域に新都バグダードを建設した。この都は円形都市として知られ、東南アジアやインドなどからも産品がもたらされ、国際商業の一大中心地となった。最盛期には東の長安とならんで人口100万人をこえる大都市に発展し、イスラーム学芸の中心地ともなった。

- ① イェルサレム ㉷ カイロ ㊦ コルドバ ㊧ ダマスクス

(11) 7世紀半ばにスマトラ島のパレンバンを中心に成立したシュリーヴィジャヤは、マレー半島やジャワ島にもその政治的影響をおよぼす強国であったが、この王国では、インドから伝わった大乘仏教が栄えた。7世紀後半に仏典を求めて唐から海路でインドを訪れた玄奘も、帰途にこの王国を訪れている。

- ① 王建 ㉷ 義浄 ㊦ 法顕 ㊧ 李白

(12) 8～9世紀に栄えたバガン朝は、大乘仏教を重んじ、ポロブドゥール寺院を建設したことで知られる。その寺院は一辺約120mの基壇に5層の方形壇と3層の円壇がかさなり、中央に大きな仏塔がたつ。方形壇の回廊には『ラーマーヤナ』や仏典に基づくさまざまな浮き彫りが刻まれている。

- ① ヴァルダナ ㊦ サータヴァーハナ ㊧ シヤイレンドラ ㊨ チョーラ

(13) 北アフリカでは、11世紀半ばに先住民ベルベル人のあいだに熱狂的な宗教運動がおこり、イスラーム教への改宗が急速にすすんだ。彼らは、モロッコのマラケシュを中心にムラービト朝をおこした。ついで12世紀前半にはナスル朝をたてた。これら2つの王朝は、北アフリカとイベリア半島の大部分を領有し、サハラ砂漠の南への遠征をおこなって、アフリカ内陸部にイスラーム教が広がるきっかけをつくった。

- ① アイユーブ ㊦ セルジューク ㊧ マムルーク ㊨ ムワッヒド

(14) イル=ハン国の第7代君主フレグ(フラグ)はイスラーム教に改宗し、ムスリムとの融和をはかり、ムスリム社会からの支持を得た。この時代の宰相ラシード=アッディーンは、モンゴルの歴史を中心とした世界史である『集史』をペルシア語で著し、さらに税制改革をおこなうなど、イル=ハン国の最盛期をもたらした。

- ① ウルグ=ベク ㊦ ガザン=ハン
㊧ サラーフ=アッディーン (サラディン) ㊨ トゥグリル=ベク

(15) 14世紀末から1511年にマレー半島南西岸に成立した港市国家マジャパヒト王国は、鄭和の南海遠征の補給基地となり、国際貿易港として栄えた。15世紀半ば、その王国の支配階級はタイのアユタヤ朝への対抗などを背景にイスラーム教に改宗した。その結果、貿易ネットワークを通じて、東南アジア島嶼部各地とうしょにイスラーム教が広がり始めた。

- ① アチェ ㊦ ガーナ ㊧ マタラム ㊨ マラッカ

(16) インドのほぼ全域を支配したイスラーム国家オスマン帝国は、バーブルによって建国された。バーブルは1526年、デリー北方のパーニーバットの戦いでロディー朝を破ってデリーを占領し、帝国の基礎を築いた。第3代のアクバルから第6代のアウラングゼーブまでが帝国の最盛期であった。

- ① インカ ㊦ ビザンツ ㊧ ティムール ㊨ ムガル

(17) 18世紀にイブン=アブドゥル=ワッハーブがワッハーブ運動を始めた。これはイスラーム教の原点回帰をめざす改革運動であり、神秘主義やシーア派を激しく攻撃し、各地のイスラーム復興運動に影響を与えた。現代まで続くイスラーム改革運動の原型ともいえるこの運動は、1818年、オスマン帝国の要請をうけて出兵したミドハト=パシャのエジプト軍によって滅ぼされた。

- ① アブデュルハミト2世 ㊦ ウラービー(オラービー)
② シャー=ジャハーン ㊧ ムハンマド=アリー

(18) 1885年、ボンベイ(現ムンバイ)でインド国民会議が設立された。初期の国民会議は、政治的に穏健な団体であったが、しだいに民族運動の中心となっていっていった。イギリスは反英運動を分断させるため、1905年に反英運動の中心であるベンガル州をムスリムの州とヒンドゥー教徒の州にわけるベンガル分割令(カーゾン法)を発表した。1906年末には、ヒンドゥー教徒優位への不安を感じるムスリムの保守的特権層がイスラーム同盟(サレカット=イスラム)を結成し、民族運動の分裂が始まった。

- ① 全インド=ムスリム連盟 ㊦ 第2インターナショナル(第2インター)
② タキン党 ㊧ フェビアン協会

(19) 1979年、イスラーム原理主義を説くサダトを最高指導者とするイラン=イスラーム共和国が誕生した。1980年、イランのイスラーム革命がイラクに波及することをおそれたサダム=フセイン大統領はイランに侵攻し、1988年まで続くイラン=イラク戦争が開始された。西アジアでは、イラン革命の影響もあり、またサウジアラビアで勢力をのばした急進派の影響もかきながらイスラーム原理主義運動が台頭した。

- ① アフガーニー ㊦ アラファト ② ホメイニ ㊧ ワレサ

(20) 2001年9月11日、ニューヨークの世界貿易センタービルとワシントン近郊の国防総省に、ハイジャックされた旅客機が衝突し、多数の死傷者が出た。アメリカ合衆国のブッシュ(子)大統領はすぐに、世界を震撼させたこの同時多発テロ事件の実行者とされるイスラーム過激派組織アル=カーイダを保護しているとして、パキスタンのターリバーン政権に対して軍事行動をおこし、これを打倒した(対テロ戦争)。

- ① アフガニスタン ㊦ イラク ② インドネシア ㊧ シリア